

2022年度 学校自己評価表

学校法人 中央高等学園 中央高等学園専修学校

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「温かい人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	---

今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 規律ある生活態度の育成・徹底 望ましい人間関係の構築 キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準
 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：方策の見直し
 (90%程度) (70%程度) (50%程度) (30%以下)

年度当初				評価結果(10月)				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	○個々に応じた学習意欲の喚起	○単位認定が心配な生徒は、放課後や長期休暇に補習を実施。また、追試課題も自宅ではなく放課後に取り組みさせている。 ○試験問題のルビ(ふりがな)対応や拡大対応など、支援が必要な場合はできる限りの対応をしている。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開を図れる。	○単位認定が心配な生徒は、放課後や長期休暇に補習を実施。また、追試課題も自宅ではなく放課後に取り組みさせる。 ○試験問題のルビ(ふりがな)対応や拡大対応など、支援が必要な場合はできる限りの対応をしていく。	○新入生はもちろん、2・3年生にも単位認定の流れを繰り返し確認した。 ○前期試験でルビ対応等が必要な生徒はいなかった。		○後期試験に向けて、繰り返し学習への取り組みの重要性を伝えていく。		○生徒一人一人が集中しやすい授業環境が大方作れている。 ○88%の生徒がその学年の単位を全て取得した。	○再履修科目がある生徒へは、担任と教科担当が密に連携をとり不足ない対応をしていく。
	○授業の質の更なる向上	○生徒の習熟度や単位認定状況を職員間で共有することができている。 ○全員ではないが、職員が様々な資格にチャレンジすることができている。	○生徒の情報を共有し、授業の質を向上させる。 ○職員の自己研鑽が日々行われている。	○生徒の習熟度や単位認定状況を職員間で共有する。 ○職員が様々な資格にチャレンジする。	○今年度から英語を習熟度別クラスに変更。より生徒の実情に合った授業を展開している。 ○職員が研修で学んだことを他の職員に共有する機会を設けた。		○クラス内での理解度の差が出てきているので、各クラスの現状を共有する。 ○引き続き職員間で知識、情報を共有し、全体のレベルを上げていく。		○生徒の取り組み、成長等の情報共有は日常的にできた。 ○資格に挑戦し合格した職員がいた。外部の研修で得た知識を職員間で共有できている。	○英語・数学の習熟度別クラスの取り扱いレベルの検討。 ○職員各自の自己研鑽を継続する。
	○資格取得率の向上	○授業の出席率は良くなったが、検定当日に欠席者が多かった。 ○漢字検定3級以下合格率41%。準2級6名、2級2名合格。 パソコン検定3級以下合格率42%。準2級7名、2級2名。 任意受検の検定受検者が増えている。 英語検定2級1/1、準2級0/1、3級3/3、4級1/1。 数学検定準2級0/1。	○漢字検定3級以下の合格率60%以上、パソコン検定3級以下の合格率が40%以上、かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。	○全員受検の検定は、検定日ではなく検定WEEKとして、検定試験を授業に組み込んでいく。 ○年間の検定スケジュールを生徒配布し、見通しを立てさせる。 ○月毎の予定だけでなく、年間の模試予定を掲示し、意識を高めさせる。	○漢字検定(6月)3級以下合格率61%、準2級2名合格。パソコン検定(7月)パソコン検定3級以下合格率62%。準2級8名、2級1名。		○漢字検定(6月)・パソコン検定(7月)共に目標を達成することが出来た。級が上がる(難しくなる)生徒が増えるので次回の検定に向けて準備をしていく。		○漢字検定(10月)3級以下合格率46%、準2級1名、2級1名合格。パソコン検定(12月)3級以下合格率41%、準2級4名。 ○年間合格率(者)： 漢字検定3級以下54%。準2級3名、2級1名。 パソコン検定3級以下52%、準2級12名、2級1名。	○3級以下の合格率を全部の回で目標達成をめざす。そのために、学習の仕方を再検討する。
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールの遵守、公共の場でのマナー向上	○生徒が学校の規律や公共マナーを理解しようとしている。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣を身に付けさせる。	○ルールを画面化することで、生徒・職員・保護者とも視覚的に共有し、毎月の服装検査を継続していく。 ○時間厳守の声掛けを授業やホームルームを通して行い生徒に意識させる。	○毎月の服装検査で再検査の対象になる生徒は少なくなってきた。 ○授業開始や集合時間に遅れてくる生徒が少数いる。		○服装検査の前だけでなく普段から声掛けを継続しその都度指導していく。 ○全体だけでなく個別に声掛けをして意識付けをする。		○服装、髪型など、服装検査前から意識できる生徒が増えてきた。 ○時間を守れない生徒が限定されてきた。	○毎月の服装検査だけでなく、毎朝のホームルーム、及び毎週の全校集会でも、整った服装を確認する。 ○職員が早めに動くことで生徒にも時間の意識をさせていく。また、時間の意識の低い生徒に個別の声掛けを継続。
	○積極的な挨拶の定着	○毎日玄関先で教員が声掛けができている。	○挨拶をする習慣を身につけさせる。	○生徒からも明るく元気のよい挨拶が返せるよう、継続して声掛けをしていく。	○毎朝玄関先での声かけに応じる生徒が増えてきて、自分から挨拶のできる生徒も数名いる。全校集会での呼びかけなどを通して生徒の意識が高くなってきている。		○継続して声掛けをする。		○帰りは自分から元気な声での挨拶が聞こえる。朝はこちらの声かけに応じて挨拶ができている。	○名前を呼んでの挨拶を継続していく。
	○清掃活動の習慣化、学習環境の整備が整う	○今年度より学年で週交代の清掃に対応している。	○自らが率先し毎日清掃活動、身の回りの整理整頓を身につけさせる。	○清掃NO見回りDAYを実施する。 ○教室の整理整頓の徹底を呼びかけ意識を高めさせる。	○清掃NO見回りDAYは実施できていない。学年によって丁寧さにばらつきがある。 ○整理整頓の意識は学年によってばらつきがある。		○最終チェックを職員がしていく。 ○ホームルーム終了時に整理整頓の声掛けを徹底する。		○学年によって丁寧さのバラつきはあるが、年度当初よりスムーズに動いている。	○学年での週交代の清掃を継続する。 ○帰りのホームルームで、身のまわりの整理整頓の声掛けを続けていく。

年度当初								最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策				評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り	○アンケート回収率：保護者94%、生徒95%。満足度は保護者94%、生徒82%。 ○「ソフトなタベ」の平均参加者9.75人。参加者は固定化されている。	○保護者・生徒アンケートで満足度90%以上。 ○「ソフトなタベ」の参加者平均10人。	○年2回の生徒・保護者アンケートを継続して実施（9月・1月：3年・2月） ○「ソフトなタベ」の参加者を増加させるため、内容を検討する。 ○「ソフトなタベ」は毎月第3水曜日に実施。	○生徒・保護者共にアンケート回収率94%。満足度は生徒92%、保護者89%。 ○「ソフトなタベ」の平均参加者15.8人。			○保護者・生徒アンケートで回収率100%目標。 ○「ソフトなタベ」の参加者を増やすために引き続き保護へ声かけをしていく。	○アンケート回収率、生徒・保護者とも100%。保護者満足度96%、生徒満足度94%。 ○「ソフトなタベ」の保護者参加者平均13名。	○年2回の生徒・保護者アンケートを継続して実施（9月・1月：3年・2月）。 ○アンケート回収率100%の継続。 ○「ソフトなタベ」の参加者10名以上の継続、及び内容の要検討。
	○クラスでの仲間作り	○3月に2年生企画の球技大会を実施。各学年で一致団結することができた。 ○勉強室終日利用の生徒は0人になった。	○人間関係固定化の枠を外し、教室に入りづらい生徒の教室にいる時間をふやす。	○生徒企画イベントを年間で計画を立てて継続する。 1学期（6月）3年生 2学期（9月）2年生 3学期（3月）1年生	○生徒企画（3年生）は6月に運動会と球技大会を実施。みんなが役割を果たせた。		○2年生は11月に体育祭とリンゴ狩りを、1年生は2月に生徒企画を実施予定。	○6月に3年生、11月に2年生、3月に1年生が企画を計画・実行して全て成功させることができ、クラスの仲が深まった。 ○勉強室利用0人が年間通して継続できた。	○生徒企画のイベントの継続。	
キャリア教育の充実・早期進路決定	○幅広い視野・職業観の育成	○3年生は93%の生徒が卒業後に進みたい方向が決まっている。	○幅広い選択肢の中から進路目標を見つけさせ、進路実現のため日々努力させる。	○感染症の様子を見ながら、学校見学、出前授業、職業人講話の計画を立てる。 ○より具体的なゴール設定が必要な生徒もいる。オープンキャンパス、職場見学等、具体的に細かな目標設定をしていく。	○3年生の進路状況は進学50%、就職46%が決定している。 ○各学年就職に向けてのセミナーを1学期に実施した。また6月には全校で航空自衛隊の見学に行くことができた。		○まだ進路が決まっていない生徒に対しての声掛けを継続し、応募前見学を促し実際に職場を見て行動に移せれるようにしていく。 ○総合の時間を活用しキャリアについて考える時間を早い段階から設けていく。	○3年生進路決定24/27名（89%）。 ○2年生は86%の生徒が卒業後の進路希望が定まっている。	○見通しを持って進路について考えさせる。 ○早い段階から履歴書を書いたり、自己PRの練習をする。	
	○進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進	○卒業生進路決定20/22名（91%）。	○自己理解を促し、理想の自分を見つけさせる。	○卒業生の経験例を伝えたり、履歴書の練習等をさせ、進路決定までの見通しをより具体的に持たせる。	○3年生は9月の就職応募に向けて、説明会の参加や職場見学を促し計画的に応募から試験まで行動できた生徒がいる一方で、なかなか行動できない生徒もいる。1・2年生は自己理解を促すために幼少期からの振り返りをしている。		○3年生の進路未決定者へのフォローをしていく。	○3年生進学・就職希望者は全員が望む学校・会社から合格・内定をもらった。未定の生徒へは卒業後もフォローしていく。	○希望する進路実現に向けオープンキャンパスや事業所説明会など積極的な参加を呼びかける。	
	○進路実現に向けての具体的・主体的な行動	○年間を通じて全学年で55%の生徒がアルバイトを経験している。	○自らの進路について真剣に考えさせることで、具体的な行動を起こさせる。	○社会経験・自己実現に向けたアルバイトを促す。	○アルバイト経験者は全校で47%にとどまっている。 ○進学に向けて学力模試を実施している。	○アルバイト経験者は全校で47%にとどまっている。 ○進学に向けて学力模試を実施している。		○継続して生徒の進路実現に向けて声掛けをしていく。 ○学力模試を定期的・継続的に実施していく。	○年間のアルバイト経験者は47%にとどまった。 ○進学希望者へ模試の受検を勧め、各学年毎回受験者がいる。	○社会経験、自己実現に向けアルバイトを促す。 ○模試の実施だけでなく、模試後に情報共有の会を開き、模試再チャレンジも実施する。
○ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る	○年度当初に全学年に現在募集のあるボランティアの応募を募る。	○自ら率先してボランティア活動や地域貢献する姿勢を身につけさせる。	○ボランティア参加の生徒を視覚化し、学期末のボランティア表彰を継続して実施する。	○ボランティアの参加募集の呼びかけをその都度行い毎回参加することができた。福祉関係のボランティアはまだ感染症の影響で中止になっている。	○ボランティアの参加募集の呼びかけをその都度行い毎回参加することができた。福祉関係のボランティアはまだ感染症の影響で中止になっている。		○募集の情報提供をする。	○募集の情報提供をその都度行ったが、福祉関係のボランティアは申し込みをしても中止が多かった。	○アルバイトを躊躇している生徒を中心に、積極的な参加を促す。	